

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名	県単交通安全施設等整備			路河川名等	(一)小倉梓橋(停線)
事業毎の通番	1	市町村名	安曇野市	箇所名(ふりがな)	黒沢川橋(くろさわがわばし)
事業目的	当路線は、主要地方道塩尻鍋割穂高線からJR大系線梓橋駅を結ぶ道路である。安曇野市都市計画マスタープランにおいて東西の主要な移動軸に位置付けられており、また、安曇野市道路整備推進計画の広域交流幹線道路に位置付けられている。近隣には、小学校及び中学校があり通学路に指定され歩行者も多く、地域住民からの対策要望が高まっている。しかし当区間は歩道が未整備で、車両・歩行者双方の安全に支障をきたしている。当事業は歩行者の安全確保のための歩道を設置するもの。				
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-4 生命・生活リスクの軽減(交通安全対策の推進)		事業実施の根拠法令等	社会資本整備重点計画法 交通安全施設等整備事業に関する法律	
関連する事業、計画等	安曇野市都市計画マスタープラン、安曇野市道路整備推進計画				
保全対象・範囲 受益対象・範囲	三郷小学校、三郷中学校 通学者、安曇野市街地方面及び松本市方面 通勤者他 地元住民 現況自動車交通量:2,706台/日(H27センサス)、現況自転車歩行者交通量:178人/12h(H27センサス)				
着手年度	2021年度(令和3年度)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
完成年度(見込み)	2024年度(令和6年度)	費用対効果	-		国庫 其他 県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=160m うち歩道橋 L=20m		250,000	-	-
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	通行車両の交通事故の減少が期待される。 歩道利用者の安全確保、特に通学児童や高齢者の交通事故の減少が期待される。			
	間接的効果(定量的・定性的)				
必要性	○現況歩行者交通量 : 178人/12h ○目的地からの距離 : 500m未満				評価 A
重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 市町村の重点施策との連携(安曇野市都市計画マスタープラン、安曇野市道路整備推進計画) ○通学路等の指定 : 三郷小学校及び三郷中学校の通学路に指定されている				評価 B
効率性	○事業期間:4年間(R3~R6)				評価 B
緊急性	○近年の交通事故件数 : 事故なし ○現況の歩道幅員 : 歩道なし				評価 B
計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知(R2.2、R2.12、R3.1) ○地域の取り組み : 協力的である(安曇野市及び地元区から要望あり) ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○事後・再評価からのフィードバック:同種事業の結果を反映(事後評価7-2-5 地元調整)				評価 B
所管課の意見	当該区間は三郷小・中学校の通学路となっているが、事業区間は人家連担区域であるものの歩道が未整備となっていることから、歩行者の安全確保のため、事業着手が妥当と判断する。			採択状況	総合評価
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-	評価の決定	事業着手

位置図

歩道設置工 L=160m
うち歩道橋 L=20m

片側歩道整備済み

事業概要説明図表

①

②

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は主要地方道塩尻鍋割穂高線からJR大系線梓橋駅を結ぶ、安曇野市道路整備推進計画の広域交流幹線道路に位置付けられた道路である。本事業区間は、三郷小学校及び三郷中学校の通学路に指定されており、歩行者も多く、地域住民からの対策要望が高まっている。しかし当区間は歩道が未整備で、車両・歩行者双方の安全に支障をきたしている。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	小中学校の通学路となっていることから、歩行者の保護が求められている。このため、地元区から安全な歩行空間の確保を毎年要望されている。
③事業説明等の経緯	R2.2 地元区長及び地権者と現地にて立会いを実施。 R2.12 区長及び役員に事業説明 R3.1 地権者に事業説明
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	安曇野市都市計画マスタープランにおいて、東西の主要な移動軸に位置付けられている。安曇野市道路整備推進計画において、広域交流幹線道路に位置付けられている。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	河川内工事において、漁協と調整を実施する必要がある。工事期間中の交通規制方法や時期について、地元と調整を実施する必要がある。
⑥地域活性化への影響と配慮	特になし
⑦その他	特になし

事後・再評価からのフィードバック

「事後評価 7-2-5 地元調整」を反映し、計画段階で地元に対して丁寧な説明を行うことで、工事中の規制方法について理解を得るよう努める。

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 137° 51' 56"
東経:E 36° 15' 24"